

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あきは)

事業所番号	0691900096		
法人名	社会福祉法人双葉会		
事業所名	グループホーム桜の里双葉		
所在地	南陽市柗塚1632-19		
自己評価作成日	平成 30年 2 月 26 日	開設年月日	平成 30年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「家庭的で思いやりのある介護サービスの提供」

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 3月 19日	評価結果決定日	平成30年 3月 29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年の事業所であるが、「家庭的で思いやりのある介護」を目標に掲げ、職員は自分の身内としての意識を持ち、親しみと敬意を大切にしながら家庭的な関係を作り、利用者の思いや出来ること、楽しみごとを把握し「尊厳ある自立した日常生活」に繋げている。地域との交流の拡大は隣の公民館との連携も期待でき、様々な交流が今後期待される。法人の地域密着型特別養護老人ホームが隣接し研修や地域貢献、災害対策など連携が期待でき、利用者家族や地域住民に安心感を作っている。管理者及び職員は、日々の業務の中で問題意識を持ちながら積極的に取り組み課題解決に向け努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し実践につなげている。		「家庭的で思いやりのある介護」を目標とし、「尊厳ある自立した日常生活を送れるよう一人ひとりに合ったケア」や「住み慣れた地域での社会参加の支援」を基本方針としている。職員は目標の実現に向け、自分の身内に接するつもりで今出来ることやそれぞれの思いを大切にしながら日々のかかわりを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が馴染みの店に出かけたり、外出などはできているが、近隣地域との交流はまだ少ない		開設一年目で、地域とのかかわりは始まったばかりである。子供神輿の訪問や保育園児とのふれあい、地域の防災訓練への参加など、地域との交流が始まっている。来年度から2か月に一回オレンジカフェを隣接の地域密着型特別養護老人ホームと共催で開催する計画が進められている。	今後、隣の公民館の利用者との連携による様々な取り組みや町内会行事などを通して事業所が地域の一員としての交流を広げられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在未実施、今後オレンジカフェ開催予定			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行えている。		地区長2名、福祉事業者、利用者家族、市職員で2か月に一回開催されている。利用者にかかる状況や生活の様子、行事が写真を添付して報告されている。委員からは地区の行事の情報や地域の高齢者の困りごとなどの意見等が出されている。会議に合わせて避難訓練も行われ意見等頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、関係を築いている、相談報告も実施している。		運営推進会議等で事業所の取組や現状の報告が行われている。利用者や制度に関わる問題等は直接窓口と連携し問題解決に向け協力している。オレンジカフェは市と連携し計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていない。鍵については夜間帯や、職員一人の早朝、夜に施錠している。また自ら開けて出て行けるように、入口にセンサー設置し見守りながら行動できるようにしている。</p>	<p>法人では毎年身体拘束に関する研修を開催し職員に周知している。法人の委員会を通して不適切な対応の無いよう徹底している。職員も禁止の対象となる具体的な行為やその弊害を正しく理解している。職員は、利用者の起こす危険に繋がる行為等には安易に否定せず、寄り添いながら見守ることで玄関に鍵をかけない工夫や不適切な対応の無いよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修でも実施して職員参加している。また声掛けや介助の際ひとつひとつ丁寧に言うよう努めている。また無意識に行っていないか再確認するよう心懸けている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修などで勉強する機会があったが、全職員の共通理解まではいたっていない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>行っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個別個別での家族との話をする機会はあるが、特別に機会を設けてはいない。</p>	<p>家族等の面会の機会には、積極的に声掛けをし、時間をとって意見等を伺っている。芋煮会や花壇作り等の行事には家族に参加を呼び掛けているが今のところ参加は得られていない。多様な機会を活用し意見等を表しやすい関係の構築に向け努力している。</p>	<p>家族等は意見等を表しにくいこともあり、信頼関係の構築の一つとして、事業所内での生活を知って頂くための利用者ごとのお便り等の検討を期待したい。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期でのグループホーム会議の実施はあるが、少人数の為、業務もありなかなかできていない。個別にその都度意見を聞き入れ皆で試行するなどを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できていない。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加。	法人による階層別研修や部署別研修など学ぶ機会は多い。今年度は接遇や看取り、事故防止、身体拘束等の研修が行われている。来年度はグループホーム独自の研修が計画されている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オープン前のグループホーム研修の際他事業所で研修させてもらい、オープンに向けての様々なアドバイスを受けている。その後は管理者同士でのアドバイス等受けている。	職員等はオープン前に地域の同業者の協力を得て研修を受けている。また管理者も地域の同業者との交流を大切にし、連携を図りながら、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことを傾聴しできる限り安心できるサービス内容を取り入れるようにしている。話しやすい環境になるよう心懸けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、要望など傾聴している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている				

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることでできそうなことを一緒に行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換し良好な関係を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで行かれていた店や床屋などにも状態見ながら行くようにしている。面会や来客の方も来やすい雰囲気づくりをしている。面会に来れなくても手紙や電話などの活用も。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごしてもらい関係づくりをする中で職員が中に入りながら行っている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や24時間シート、私の気持ちシートなどの活用。以前の状態を再度家族に聞いたりして検討している。	利用前の生活や今出来ることを把握しながら普段のかかわりの中で会話や仕草などから一人ひとりの思いの把握を行っている。職員はかかわりの中で時間をかけ思いを引き出せるよう普段から努力している。	思いや意向の把握について、職員間で共有し職員夫々の「気づき」などを加えながら、より深く把握できるよう、アセスメント等のツールの検討を期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時点で家族から今までの生活歴や性格なども含め情報収集につとめている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所して1か月は24時間細かな情報収集に努めて起床時間や日中の過ごし方就寝時間、夜間の様子など記録し様子観察している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリング記録を行い課題が出た場合は担当、CM中心に意見交換している。またミーティング時にも同様。	毎月のモニタリングを基に、利用開始してから1か月後に見直しを行い、その後、状況の変化がなければ6か月毎、計画の達成状況の把握を行い、評価し、見直しを行っている。見直しの際には職員等と話し合い、家族からは事前に伺い、現状に即した計画になるよう努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日モニタリング記録を行い課題が出た場合は担当、CM中心に意見交換している。またミーティング時にも同様。また日々の日誌記入での情報共有。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している				
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医に継続して受診している。基本家族対応しているが、情報の伝達を行い、必要時職員も同行している。	かかりつけ医は利用者や家族等の希望に応じて連携を築いている。原則家族による通院であるが、事業所内での情報を口頭で又は状況に応じて1か月のバイタル等の写しを提供し安心して医療が受けられるよう工夫している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在。法人他事業所の看護師に医療面での相談行う。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の前例無し。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不在の為、実際終末期に近くなった場合などは看護師のいる法人他事業所への移動などの検討を行う場合がある。	重度化に向け看取り等の研修が行われている。終末期等は早い段階から事業所で出来ること出来ないことの説明が行われ、方針を共有している。また状況の変化に応じて繰り返し話し合うこととしている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在急変時の前例はないが、法人内部での研修を受けたのみで、現在マニュアル等整備していない。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。市主催の水害対策時の緊急避難場所への誘導訓練などの実施している。	年二回事業所独自の避難訓練が行われている。運営推進会議の日に避難訓練を行い、委員に実際見ていただき協力を仰いでいる。水害等の地域の訓練にも参加している。食料等の備蓄も行われ広域災害に対応している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせた声掛けや対応ができるようその方をよく知り、敬意をもって接するようにしている。	事業所の基本方針に「尊厳ある自立した日常生活」を掲げ人格の尊重に向け普段から努力している。職員は「自分の身内」と思いながら接することを心掛けるとともに、親しみのあまり不適切な対応の無いよう、注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけでなく本人の思いを大切に支援できるよう心懸けている。自己決定できる方については希望をお聞きし実施している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりの生活ペースに合わせた支援を心懸けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでいただいたり、ご自分の希望の床屋さんなどに行き好みの髪形などにしていたりしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り一緒に調理作業をしていただいたり、片付けを行っている。一緒に献立を考えたり買い物にも同行している。	3食事業所内で調理し、生活の中の食への楽しみを大切にしている。献立の希望と一緒に買い物に行ったり、出来る方には調理の過程に加わって頂き、旬の食材を取り入れ家庭的な食事になるよう支援している。また、行事食や外食、出前などアクセントを加えながら食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った形状、量、物の提供している。また3食記録し体調面の様子観察も行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいなどの口腔ケアの実施の声掛け、支援介助行っている。夜間は義歯洗浄消毒の支援行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録チェック表の使用。声掛けが必要な方には誘導したり、失禁が多い方は回数や、時間を見て検討したりしている。夜間オムツ対応の方も巡視時の状態を見て誘導などしている。	排泄チェック表を基に適時、定期的の声掛けや誘導によりトイレでの排泄の支援に努力している。必要な利用者には夜間も対応している。ユニットには4か所トイレがあり快適に過ごせるよう設備されている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回の体操や、食事面での水分摂取、繊維質や乳製品の摂取などの面からも工夫している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本午後からの3～4時間程度の時間内での入浴になるが、なるべく本人の希望に沿い入浴していただいている。拒否の在る方については職員同士で情報交換し工夫している。	一般浴と機械浴があり、身体状況に応じて安全に入浴できるよう設備されている。入浴しながらの方には声掛けや誘導を工夫して清潔が保てるよう支援している。ゆず湯など季節のかわり湯なども工夫し、入浴が楽しみなものになるよう支援している。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた環境を整え、また体調面も考慮し臥床すすめたり、状態に合わせて声掛けしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必要な方には介助行い誤薬防止、服薬確認を行っている。変更時皆に申し送りしている。ただ薬の内容まで全部把握しきれていない状況だと思う。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日やイベント時などは何が食べたいか聞き取り行って対応している。日常では日々の中で自分が受け持つ仕事としての張り合いを持たれている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族地域の方を巻き込んだ支援はまだまだできていないと思う。個別では外出や買い物、近隣の散歩などしている。	菊祭りや足湯など行事としての外出や日常の散歩、買い物、花壇の手入れ、ごみ捨て等戸外に出かける機会を大切にしている。外の駐車場でイベントなども企画されている。家族の協力を得て外食や買い物などの支援も行われている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方については個人で所持され、買い物や通院時などの金銭の使用を行っている。ただし多額の金銭はご遠慮いただいている。預かり金については、毎月出納帳をつけている。本院希望時使えるようにしている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話をしたり、手紙をいただいたら返事を書いてみたらと進めている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な温度調節や清潔を保つよう心懸けている。季節感の演出などはまだ物足りなさを感じている。	木をふんだんに使い、和室には炬燵を置き、またテーブルや椅子・ソファを配置し利用者が居心地よく思い思いにくつろげる空間がある。高窓からの採光で部屋は明るく、強い日差しには、すだれ等で光量を調節し、温度や湿度を管理しながら快適に過ごせるよう努力している。季節感のある飾りや思い出の写真が掲示され家庭的な空間である。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置などで思い思いに過ごせているかは不安である。共用空間内でのパーソナルスペースは今後検討。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物などを持参して自宅に近い風息ができるように家族にも協力いただいている。また動きやすい動線になっているか本人と共に確認して配置している。	利用前の生活からのギャップを軽減するため、馴染みのものの持ち込みがある。それぞれが思い思いの飾りつけがなされ快適に過ごせるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどの場所が分かりにくい方には大きく表示するなどして工夫している。			